

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和6年度第3回戸田市地域公共交通協議会
開催日時	令和7年1月27日(月) 午前10時00分～午前11時00分
開催場所	戸田市役所5階 501政策会議室
委員長等氏名	会長 久保田 尚 委員(埼玉大学名誉教授・日本大学客員教授) 副会長 青木 順一 委員(戸田市町会連合会)
出席者氏名 (委員)	久保田 尚 委員(埼玉大学名誉教授・日本大学客員教授) 青木 順一 委員(戸田市町会連合会) 鈴木 健史 委員(国際興業株式会社) 山中 隆 委員(埼京タクシー株式会社) 関根 肇 委員(一般社団法人 埼玉県バス協会) 藤田 貢 委員(一般社団法人 埼玉県乗用自動車協会) 神保 成究 委員(東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社) 美濃浦 優孝 委員(国際興業労働組合) 溝上 西二 委員(戸田市商工会) 坂井 貴夫 委員(国土交通省関東運輸局 埼玉運輸支局) 舩津 宗和 委員(埼玉県 蕨警察署) 古川 雄哉 委員(埼玉県 企画財政部 交通政策課) ※村上 晶彦委員代理 金子 エリ 委員(市民公募委員) 山岸 義照 委員(市民公募委員) 早川 昌彦 委員(戸田市都市整備部長) 村井 芳巳 委員(戸田市道路管理課長) 長谷川 昌之 委員(戸田市経済戦略室課長) 長友 弘毅 委員(戸田市健康長寿課長) 石橋 晴美 委員(戸田市障害福祉課長)
欠席者氏名 (委員)	増渕 洋一郎 委員(戸田市社会福祉協議会) 齋藤 光紀 委員(埼玉県 さいたま県土整備事務所)
説明のため 出席した者	株式会社ケー・シー・エス 川村、倉澤
事務局	都市整備部 山碓次長 都市計画課 今泉課長 都市交通課 高橋課長、窪主幹、今井主任、浜田主事、小俣主事補

議 題	1 開会 2 議題 (1) 地域公共交通計画の策定期間の変更について (2) 地域公共交通計画の策定スケジュールについて (3) 地域公共交通計画の概要、公共交通を取り巻く現状と課題について 3 その他 4 閉会
会議結果	別紙「会議の経過」のとおり
会議の経過	別紙「会議の経過」のとおり
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・委員名簿</li> <li>・【資料1】 地域公共交通計画の策定期間の変更について</li> <li>・【資料2】 地域公共交通計画の策定スケジュールについて</li> <li>・【資料3-1】 地域公共交通計画の概要・公共交通を取り巻く現状と課題について</li> <li>・【資料3-2】 戸田市地域公共交通計画（素案）</li> <li>・【資料3-3】 戸田市地域公共交通計画素案に対する意見 提出様式</li> <li>・【参考資料1】 「地域公共交通計画」の実質化に向けたアップデート(抜粋)</li> <li>・【参考資料2】 地域公共交通計画構成案について</li> </ul>

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	1 開会
	2 議題について
	(1) 地域公共交通計画の策定期間の変更について
会長	【議題1】について、事務局から説明願いたい。
事務局	《資料に沿って説明》
会長	ただいまの事務局からの説明に何か意見・質問はあるか。
委員一同	《意見なし》
会長	地域公共交通計画の策定期間の変更について、事務局説明のとおりとすることに異議はないか。
委員一同	《異議なし》
会長	異議がないので、事務局説明のとおりとする。
	(2) 地域公共交通計画の策定スケジュールについて
会長	【議題2】について、事務局から説明願いたい。
事務局	《資料に沿って説明》
会長	ただいまの事務局からの説明に何か意見・質問はあるか。
委員一同	《意見なし》
会長	地域公共交通計画の策定スケジュールについて、事務局説明のとおりとすることに異議はないか。

委員一同	《異議なし》
会長	異議がないので、事務局説明のとおりとする。
会長	(3) 地域公共交通計画の概要・公共交通を取り巻く現状と課題について 【議題3】について、まずは【資料3-1】前半、地域公共交通計画の概要について、事務局から説明願いたい。
事務局	《資料に沿って説明》
会長	ただいまの事務局からの説明に何か意見・質問はあるか。
委員	【資料3-1】の路線図について、使用している色が重複しており路線が分かりにくいいため、視覚的に判別できるようご配慮いただきたい。 利用者数について、【資料3-1】の「2-1 公共交通全般を取り巻く現状と課題」では、「廃線や運行回数の減少等」と記載があるのに対し、「2-3-2 地域公共交通の利用状況」では、市内路線バスの輸送人員が増加しており、状況に相違がある。前者は、全国的な状況を表した文章という認識で間違いないか。 また、運転者の改善基準告示に関する記述の中で、「路線バスの休廃止などの動きが拡大するおそれがあります」と表現しているが、既にそういった状況に陥っていると感じる。もう少し踏み込んだ表現でも良いのではないか。 これらの3点について伺いたい。
事務局	1点目の路線の色について、着色を変える、破線を使用するなど変更したい。 2点目の利用者数の記述については、ご認識の通りである。 3点目について、ご提案の通り踏み込んだ内容に記載を改めたい。
会長	利用者数を見ると、JR とコミュニティバスはコロナ禍以前の水準に回復していないが、路線バスはコロナ禍前の数を上回っている。何か特別な理由があるのか。

事務局	<p>詳しい分析は今後、行っていくが、戸田市の人口が増えているということ、コロナ禍が明けたことでレジャー需要が回復し、彩湖・道満グリーンパークなどの利用が増えていることなどが要因と考えている。</p>
会長	<p>これから分析を深めていただきたい。その他意見・質問はあるか。</p>
委員	<p>【資料3-1】の2-3-2(4)収支状況で、西川61系統と西川62系統の補助金額の記載があるが、西川61系統の廃止後も金額が大きく減少していないのはなぜか。</p> <p>市の負担額が大きいのであれば、利用者を増やせば負担額は減るのか。他にも路線がある中で、なぜ西川61系統・西川62系統だけを補助しているのか。</p> <p>下笹目バスターミナルについて、国際興業の路線バスが主として使用しているが、国際興業から賃料を受け取っているのか。</p> <p>以上の4点について伺いたい。</p>
事務局	<p>1点目の西川61系統・西川62系統の補助について、令和5年度は西川61系統の廃止前であったため、2系統分の金額を記載している。西川62系統だけになった令和6年度は、予算規模で約1,900万円の補助金額となっている。</p> <p>2点目の市民負担については、利用が増えれば収入が増加するので、それに応じて補助金額も減少する形になる。</p> <p>3点目の補助対象路線については、西川61系統・西川62系統は長大路線であり市内の東西を走る重要路線であるが、一方で赤字額が大きいということで廃止が議題に上がった中で、市内の公共交通網を守るために補助させていただいている。他の路線も重要ではあるが、比較的赤字が少ない路線もあることや、事業者からの要望もなかったことから、このような形となっている。</p> <p>4点目の下笹目バスターミナルの賃料は、国際興業様から年間約400万円いただいている。</p>
委員	<p>路線バス運行事業者の立場からの意見となるが、西川61系統・西川62</p>

	<p>系統は、赤字額が事業者として看過できる水準ではなかったため、市に補助をお願いした。利用者数は、戸田市内では増えていてありがたいことだが、それに対応して増便しようにも、運転手を増やすことが困難になっている。お客様がいるのに増やせない、減便せざるを得ないという状況に陥ることを避けるため、一昨年、運賃改定を行い、現在も再度の運賃改定を申請中で、運転者の待遇改善を図っている。</p> <p>市民の方々にご理解いただきたいのは、当社では戸田営業所の運転者約160名で戸田市民約14万人分の交通を一手に受け持っている。バス運転手は鉄道が動き出す前の早朝から出勤するため、遠方からの通勤が困難であり、市民の方に担っていただくことが最も理想的な姿である。利用して路線を残そうという段階から、運転して残そうという段階に移り変わりつつあるということを頭の隅に留めていただきたい。</p>
委員	<p>【資料3-1】の公共交通を取り巻く現状と課題には、全体的に戸田市内の記載しかないが、居住地域や目的地によっては埼京線の利便性が低く、市外の京浜東北線の駅まで移動している市民も多い。そういった移動についても考慮されているのか。</p>
事務局	<p>計画区域が戸田市内であるため、記載は戸田市を中心とした内容となっている。ただ、利用把握という観点では、市民アンケートや利用者アンケート等で市外の鉄道駅への利用も把握しているので、そういった視点も踏まえて地域公共交通ネットワークを検討していきたい。</p>
委員	<p>【資料3-1】の中で、タクシーに関する記述が少ないように感じる。タクシーも重要な公共交通手段であり、市内でデマンド交通等も検討されている中で、デマンド交通をタクシー事業者が担う例も多いことから、タクシー業界の現状についても記載を増やしてはどうか。</p>
事務局	<p>いただいたご意見の通り、タクシーについて掘り下げた記載内容を検討していきたい。</p>
会長	<p>では、【資料3-1】後半の公共交通を取り巻く現状と課題について、事務局から説明願いたい。</p>

事務局	<p>《資料に沿って説明》</p> <p>「2-6 公共交通を取り巻く現状・課題の整理」について、将来人口の推計値が古い推計に基づいた記載となっているが、最新の推計で15万人に達しない推計値になっており、後日訂正させていただきたい。</p> <p>なお、説明した地域公共交通計画の概要、公共交通を取り巻く現状と課題について、内容のボリュームが大きく確認に時間が必要だと考えているので、意見などがあれば、配布した意見提出様式にて2月25日までに提出をお願いしたい。</p>
会長	<p>ただいまの事務局からの説明に何か意見・質問はあるか。</p>
委員	<p>課題3に、コミュニティバスの見直し検討として、路線バスとの運賃バランスの改善との記載があるが、コミュニティバスの運賃改定について、これまで戸田市ではどのような議論がなされてきたのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>高齢者や障がい者の運賃無償化についての議論はあったが、バス運行事業者への影響が非常に大きいという課題もあり、実施に至っていない。今まで、コミュニティバスと路線バスの運賃格差という観点で議論は行っていないが、市民生活への影響が大きいということもあり、市では100円のまま継続したいという考えを持っていた。しかしながら、路線バスの運賃改定によって運賃差が広がっている現状もあるので、協議会での協議内容も参考にさせていただきながら、検討していきたい。</p>
委員	<p>市民と市外在住者で運賃の差を設けるということも考えられる。通勤・通学で利用している人にとって、コミュニティバスと路線バスの運賃の違いは大きく、行きと帰りで使い分ける方もいる。運賃支払いの中で毎回確認するのは運転手の方の負担が大きく現実的ではないかもしれないが、自己申告制にするなど、もっと弾力的に考えられないか。物価の高騰が続いている中で100円というのは安すぎるということを市民にとって身近に感じられるようにならないか。</p>
事務局	<p>利用者の申告によって市民と市外在住者で区別をするのは、その都度確</p>

	<p>認しながら運賃収受することになるので、ダイヤへの影響もあり、難しいと考えている。マイナンバーカードを活用して運賃の区分ができるかなど、技術の進展に応じて検討したいと考えているが、現状では課題があると捉えている。</p>
委員	<p>課題4について、運転手の担い手だけでなく、工場員や事務員も含め、バス業界全体が敬遠される雰囲気もあり、従業員の採用が難しい状況である。担い手不足に対する記述を増やしていただいてもいいのではないかと。AIオンデマンドなどの具体的な内容もご提案いただいているが、デマンド交通であっても根本的に運転を担う乗務員は外せないファクターであるので、ご検討いただければと思う。</p>
事務局	<p>ご提案の通り、担い手不足の対策についても、計画の中に盛り込んでいきたいと考えている。</p>
会長	<p>先ほど委員から発言があったが、運転手は地元の方が望ましいという観点で言えば、長く地元で働けるという魅力もアピールしていただく余地はあるかと思う。</p>
会長	<p>事務局からの説明のとおり、意見等があれば、2月25日までに提出してもらいたい。事務局は、それらの意見について、次回の協議会で説明してもらいたい。</p>
事務局	<p><b>3 その他</b></p> <p>次回の令和7年度第1回の協議会について、5月中旬から5月下旬の開催を予定している。詳細が決まったら、改めて案内する。</p>
	<p><b>4 閉会</b></p>